

福島薬剤師会・福島県病院薬剤師会福島支部 10月合同研修会

参加レポート

研修委員 宍戸 恵美

日時:平成30年10月25日(木) 19:00~20:45

会場:サンパレス福島 3階 in the STYLE

【情報提供】

「ジェネリック医薬品最新の話題」

第一三共エスファ株式会社 様

【特別講演】

「薬局薬剤師と病院薬剤師との地域医療連携について」

講師 医薬情報研究所 株式会社 エス・アイ・シー

取締役/医薬情報部門責任者 堀 美智子 先生

・日本の将来人口はどうか

高齢化率は増えない、しかし高齢者は増える。

高齢出産のリスク:骨粗鬆症を早める

セクハラになるかもしれないが、子供を産んでほしい。少子化を忘れてはならない。

・死ぬ前に介護という問題が発生。

高齢化のピーク、医療需要総量のピークは地域によって異なる→対応・対策は違う

自分の県(福島県)がどういことをしようとしているのかを知り、それに到達するにあたり、薬局・病院薬剤師が関与していくか

認知症高齢者 :埼玉県民 700万人がすべて認知症になるようなイメージ

患者のことを言っているが実は自分の問題。眼の前にいる患者のことを、自分の問題に置き換えることが大事。→顔が見える Face to Faceの人間関係が重要

骨粗鬆症の患者数(40歳以上):1280万人(ほぼ東京都民 1374万人と同じ)

地域によりビタミン D を生成するのに必要な日光照射時間は異なる。諸外国ではミルクの中にVD添加されている。

大腿骨を骨折した 40 歳以上の割合:東北は意外に低い→納豆効果!! 良いものを他の都道府県に広めることも大事。全国一律に対応をやってはいけない。

- ・医療・介護提供体制の見直しが平成 30 年度に一気に行われる(医療計画・介護保険事業計画・医療費適正化計画・国保改革)

味覚障害がある患者がいたら・・・病院と薬局でどこに繋がればいいのか。

- ・地域支援体制加算の新設: 地域包括ケアシステムが動く、その中で薬局をどう位置づけるかという意味。

基準調剤 1 以外の薬局: 地域支援体制加算を算定するための努力をしている

⇒服用薬剤調整支援料の実績

服用薬剤調整支援料とは??

処方提案なんて、文書で書いてなんて・・・無理・・・?

多剤投薬: いらぬ薬はいらぬ! 本当に必要な薬か見極める。

例 骨折した患者の背景

BZ 系抗不安薬 (心療内科から) ⇒ ふらつき、転倒で入院!!

↓

動悸(心臓は悪くない)

↑

咳(+): ホクナリンテープを使用

対症療法の薬は漫然と投与されていないか、確認が必要

処方を丁寧に見ることでポリファーマシーを作ってきた原因がつかめる。

長期の抗菌薬

抗菌薬の使用についての説明をすると医師に加算が付く。(小児抗菌薬適正使用支援加算)

服用薬剤調整支援料⇒「調剤と情報」12月号

長期 PPI の処方の必要性あるか(PMDA ランソプラゾール 210 件報告、FDA 低 Mg 血症)

中止して胸焼けが出た時にどうするか提案までしてはどうか。

ニフェジピンが胃食道逆流症の原因だったのではないかな 等々

⇒薬剤師が生き残っていくのはここなのではないか!

ポリファーマシーを作ってしまった問題点がどこなのかを考える。

・高齢者の口腔機能の状況

薬局としては、オーラルフレイルに関与していく

お薬手帳に「唾液が出にくい」など記載

ハッピーターンを使った咀嚼機能評価(サクサクテスト):調剤と情報 2018.9

薬剤師が興味を持ったことをどこにつなげるかが大事。

口腔乾燥症(唾液分泌の抑制、脱水、高血糖)←薬局でこのような訴えが出るわけではない。

患者のエピソードに興味を持つこと。

口紅ののりが悪い、外出する気がない・・・(元芸姑さん)⇒唾液分泌の抑制。(BZ系薬剤による)

アセタゾラミド・・・炭酸だけでなく、食べ物全般アルミホイルのような味になる。

・抗コリン作用に関するシールの活用

緑内障

抗コリン作用があるからといってすぐに服用出来ない!ではない。使っている人が圧倒的。

狭隅角緑内障かどうか⇒病院薬剤師から情報提供の提案を。

「おしっこが出にくくなったら止めてね」

「お月さまが傘をかぶったようなわっかが光に見えたら眼圧が高くなっているかもしれないので受診してみて」

冬場:緑内障だと知らない人が風邪薬、鼻炎の薬を飲むことで発作を起こし、急性緑内障になることが多い。

病院と薬局の違い:患者の生活の場があるかないか

在宅により、患者の生活の状況が把握でき、病院に報告ができるような状態が望ましい。

・プロマックの服用により貧血を起こす⇒銅の欠乏に気づき、対処方法を指導(ココアなどを飲む)

過去にポリグリッブ(亜鉛を添加してあった)が回収された例もある。

・口内炎: SJ 症候群には要注意

多形性疱疹⇒急激に進むことがある⇒対応できる病院への紹介が大事。

DPP-4 天疱瘡薬疹多い。

ニコランジルによる口内炎

投与期間が1~2年で出現することがあり、ニコランジルが原因だと気づかれずに、重篤化することがある。

眼の前の患者に真摯に向きあい、医療費適正化のために薬剤師が関与していかなければならない。データを出し、薬剤師がいないと困ると分かってもらう必要がある。